

白檀 びやく だん

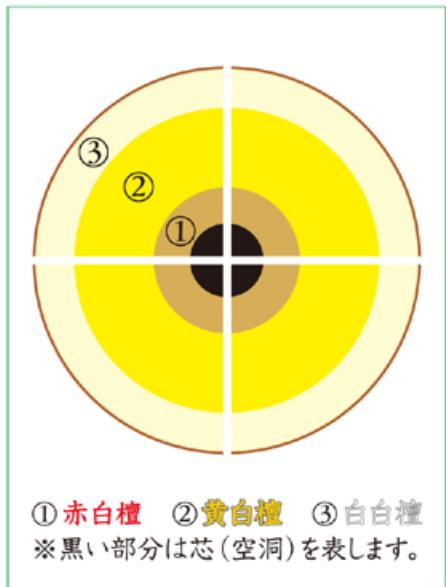
英語名 = サンダルウッド (SANDAL WOOD)

ヒンズー語名 = チャンダン (CHANDAN)



- 白檀は香木(こうぼく)、良い香りのする木の一つで、油分(香り成分)の量が命です。インドのマイソール地方で育ったものは、その油分の多さから最高級とされ、老山白檀(ろうざん びやくだん)と称されます。最近はインド政府によって強力に保護されており、価格が急騰中です(かつての数倍)。(同じインドでも、他地方産は香油量が老山白檀の30%以下。他国産は10%~0%。香りません。)当社白檀グッズは、香り豊かな高品質の白檀を熟練職人が加工した『インド白檀製品』です。
- 育つまではそれなりの年数を要します(?十年)。てっぺんや枝は細く根部は脆いため、彫刻などの材となるのは幹の部分だけ。太さが均等でなく真っ直ぐとも限らないため、とれるのは最大で縦3m位とか。芯は空洞部分が多く使えません。ひび割れ等が多いため、通常は縦に四つに割って使用します(下図A参照)。最大で45度角程度(これ以上はプレミアもの!)。樹齢を重ねればもっと大きくなりそうですが、通常は百年くらいで枯死、品質も低下します。
- 芯から皮まで、①赤白檀 → ②黄白檀 → ③白白檀と、中心部に近い部分ほど油分を多くふくむ傾向に有り、また色も赤茶色に近く、高価です。(卵の卵白と卵黄のようにハッキリとは分かれていません。)木の歪み方(偏り方)にもよりますが、基本的な割合からいっても、大きめのものがどれやすいのは黄白檀となります。赤は油分の多さが仇となり脆く細工が難しいため、そこそこに固い黄が彫刻用となることもしばしば。大きな彫刻は、赤・黄どちらを使っても相当なお値段ですが、これには加工費用もけっこうな割合で含まれております。職人さんの一日あたりの手当は安いものの、制作期間が年単位…(日当×365日)。
- 老山白檀は 外貨を獲得可能な稀少資源のため、インド政府が軍隊に守らせています。当然、生えている場所は立ち入り禁止のため、そのすぐ外に生えてたのを入り口を守っていた兵隊さんに許可をいただいて撮影しました(写真B)。切り倒した後の製材は国家管理の下で、競売にかけられます(写真C)。彫刻などに加工してからのほうが、そのぶん外貨を稼げるため、原木・オイル・パウダーの状態では原則輸出不可。(寺院等 重要文化財の修復など、相応の大義名分があり、十分すぎる量を仕入れることが必要なら、あるいは…?)。

図A



①赤白檀 ②黄白檀 ③白白檀
※黒い部分は芯(空洞)を表します。

写真B



写真C

